

2025年度 第9回東京都立大学法人経営審議会議事要録

日時 2025年12月24日(水) 9時30分～11時00分

場所 新宿NSビル 3-M会議室

出席者 中山 泰男 理事長
大橋 隆哉 副理事長(東京都立大学学長)
橋本 洋志 副理事長(東京都立産業技術大学院大学学長)
野間 達也 副理事長(事務局長)
吉澤 昌純 理事(東京都立産業技術高等専門学校校長)
津村 博文 理事(東京都立大学副学長)
山下 英明 理事(東京都立大学学長特任補佐)
ウスビ サコ 理事(国際担当)
今市 涼子 学外委員
桜井 伝治 学外委員
渡邊 光一郎 学外委員
鵜瀬 恵子 監事
岡村 俊克 監事
高見 之雄 弁護士
浜 佳葉子 法人運営アドバイザー

1 開会

2 確認事項

- (1) 2025年度第8回議事要録の確認について
議事要録(案)が提示され了承された。

3 報告事項

- (1) 2025年度上半期収支実績報告について
会計管理課長から報告があった。
- (2) 資金運用状況報告について(2025年12月1日現在)
会計管理課長から報告があった。
- (3) 東京都立大学 丸の内サテライトキャンパスの法人教職員への開放について
東京都立大学文系管理課長から報告があった。
キャンパスの利用方法や開講されている経営学研究科のプログラムについて、以下のとおり意見交換があった。
・東京都立大学の国際化を推進するためのシンポジウムなどでの活用のほか、特に地方大学が重要視している

産学連携の起点としても本キャンパスを利用できるとよい

- ・現下の DX や AI 時代においては、技術の進歩や社会の動向を踏まえ、開講している経営学、経済学、ファイナンスのカリキュラムや学び方を見直していく必要もあるのではないかと
- ・東京都立大学における MBA の特色としては、在籍している企業の課題と学んだ専門知識を踏まえ、修士論文を作成することを通じて問題解決を図ろうとしている点であり、その意味では社会情勢を踏まえた課題解決型学習を行っている
- ・東京都が設置した法人として、国際金融都市構想などをサポートする人材を育成するといった観点において、これからも各プログラムの工夫の余地があってもよい

(4) 東京都立産業技術高等専門学校の広報強化に向けた取組に関する現状報告

東京都立産業技術高等専門学校高専品川キャンパス管理課長から報告があり、これまでの取組成果と今後の課題等について以下のとおり意見交換があった。

- ・保護者からすると小学校の頃から進路を狭めてよいかという不安がある。そのため、高専進学後もその先の進路が多様であり、本法人内の大学にも接続ができるとアピールできれば、保護者も進路が広がるというイメージをもって子供に勧めることができるのではないかと
- ・子どもたち本人に対しても、早期に様々な将来の選択肢を示せた方がよいため、小中学校とも話し合いながら、進学先として都立高専があるということを知ってもらうことが重要
- ・先日、ボツワナ共和国の副大統領が都立高専を視察されたが、世界には都立高専の卒業生のように、現場ですぐに仕事ができる人材を必要としている国も多い
- ・教職員、学生が一丸となり広報を行うという理念は重要だが、持続可能性の視点も重要。方針を持ち、法人または東京都にも支援を仰ぎながらリソースを確保し、役割分担と責任を明確にして進めて行くべきである
- ・高専出身者の就職先はグローバル企業、国内大手企業、スタートアップ等多様であること、また、身に付けた技術力に加え、AI の発展に伴うものづくり系技術者への需要の高まりを受け、様々な企業で活躍し高い収入を得ていることもアピールしていくことも必要

4 その他

(1) 東京都立産業技術高等専門学校の学生の活躍について

東京都立産業技術高等専門学校高専品川キャンパス管理課長から、学生チームが、スーパーコンピューターを使った超高速計算や AI の技術力を競う国際大会 (※) において、Best HPC Performance 賞を受賞したことについて報告があった。

(※) 8th Asia-Pacific High-Performance Computing AI Competition

(2) その他報告

① 各校卒業式・修了式及び入学式の日程について

② 2026 年度経営審議会日程 (案) について

経営企画課長から報告があった。

また、理事長から、サコ理事のマリ共和国芸術文化功労章受章についてお祝いの言葉があった。